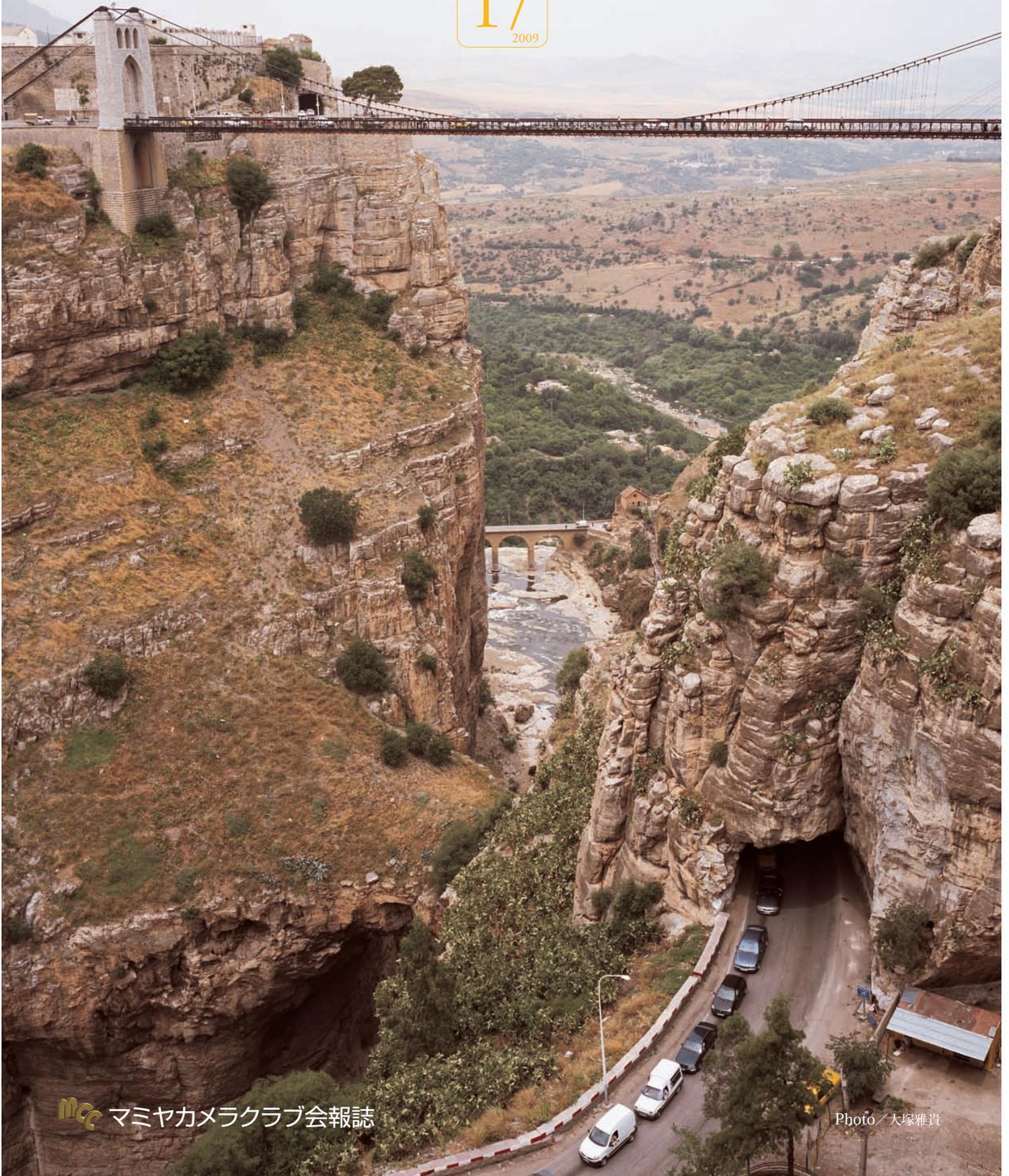


Mamiya Gallery

Vol.
17
2009



MCCフォトコンテスト 18 入賞作品



総評

MCCフォトコンテストも18回を迎えました。今回は初めて応募された方が多く、また良い作品がそろっていました。新しい力が育っていることは好ましく、嬉しく思っております。もう一つ特筆すべき点は、マミヤ7で撮られた作品の入選が多かった事です。もとよりマミヤ7は描写力には定評のあるカメラですが、レンジファインダーなので一眼レフに比べたら、撮影に慣れが必要となります。レンズの焦点距離も特徴として広角系が多いので、これだけ入選者が多くなったということは皆さんがカメラを使いこなし、使い切ることができるようになったからだと思います。

カメラに振り回されるのではなく、特徴と機能を活かしつつそれぞれの感性を研ぎ写真ライフを長く楽しんでいただきたいと思います。

日本写真家協会会員 原 弘男

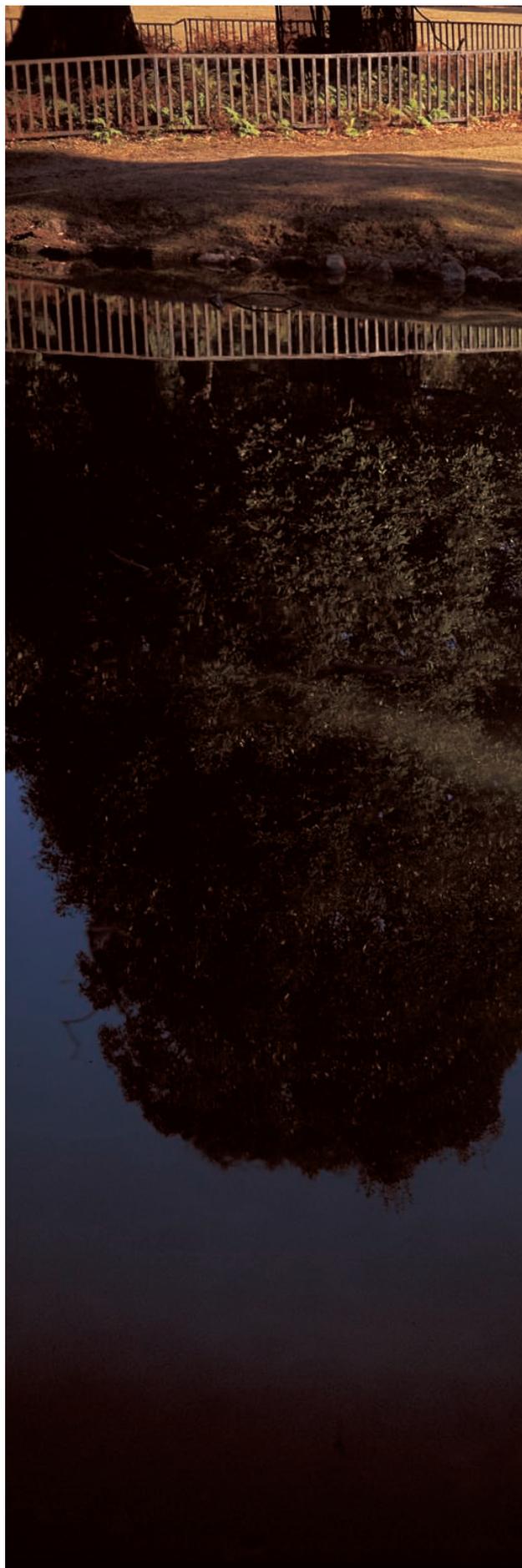
金 賞

『そらの向こう側』

野村 佳世(大阪)

実像と虚像が渾然とした不思議な空間表現の作品です。いつかどこかで見たような、そんな手ごたえを感じさせます。表現手段としては実像をカットして上下を逆にして現実感をまったくなくしてしまうという手もあります。

マミヤシックスIVB Dズイコー75mmF3.5 f3.5 1/30秒 ヘルビア50







銀 賞
『樹 影』

戸塚 勇(埼玉)

人っ子ひとりいない新宿御苑の写真というのも珍しいですね。たぶん朝一番の撮影だと思いますが、綿密なロケハンの成果でしょう。魚眼レンズ風に見えるまるい影などがちょっとお洒落です。

645AFD AF35mmF3.5 f22 オート ヘルビア100



銀賞

『秋光』

中田 友一(栃木)

夕方の暖かい光の色をうまく作品に生かしています。光と影のバランスが絶妙で、背景の木と彼岸花の配置がよく、花が特にしっかりと強調されています。

RZ67プロ Z180mmF4.5W-N f45 2秒 ベルビア100



銅賞

『山里の春』 大橋 茂夫(奈良)

水の流れをうまく読んで撮っているので、とても面白い模様が現れています。墨絵調のローキーな色味がさらにその印象を盛り上げています。スローシャッターの効果を生かし想像力が作り出した作品です。

645AFDII AF55-110mmF4.5 f32 6秒 ヘルビア50 ND4



銅賞

『マングローブ落葉』 飯塚 光男(東京)

柔らかい光でマングローブの絡み合った根の形や質感がよく表現されています。撮影ポイントの設定が良かったので、背景がいかにも南国という感じになり、良い雰囲気に仕上がっています。

マミヤ7II N150mmF4.5L f32 4秒 ヘルビア50

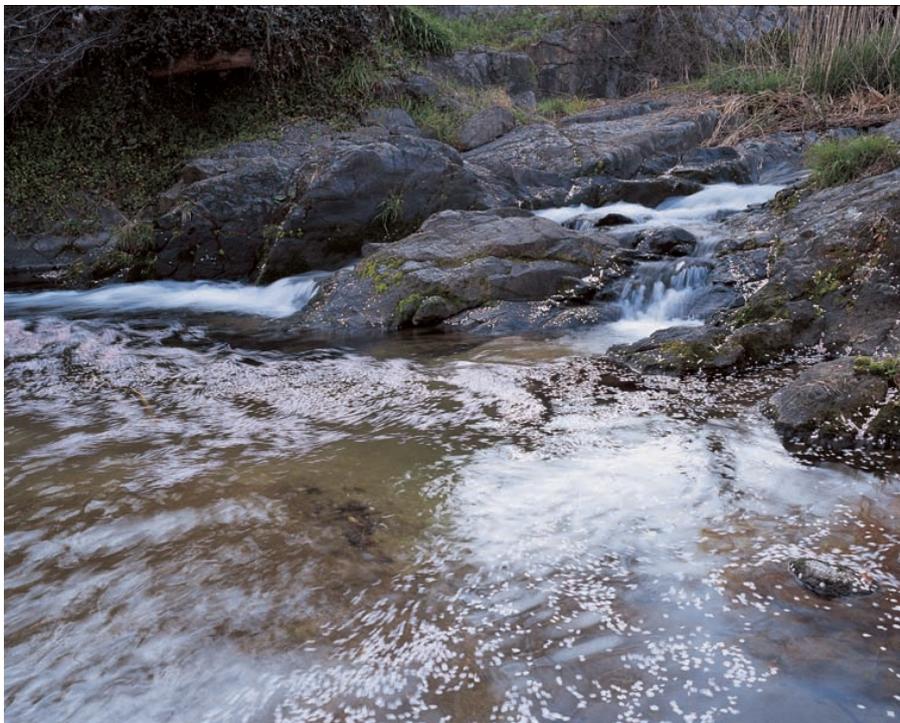


銅賞

『緋碧の初夏』 籠谷 龍作(東京)

定置網の浮きがカラフルで海水浴場のパラソルのように見えます。夏雲との対比が鮮やかで初夏というよりも、盛夏に見えます。画面構成が緻密でデザイン的にも優れたものを感じます。

645プロTL C55-110mmF4.5N f22 オート ベルビア100 PL



コダック賞

『時の流れ』 藤尾 博國(大阪)

何げない景色の中から春のドラマをうまく捉えています。シャッタースピードをさらに遅くすると花びらのパターンに変化がでますので、そのバリエーションを撮影されても良いでしょう。上と右を少しトリミングすると写真の印象が締まって強まります。

マミヤ7II N65mmF4L f22 オート E100VS



入 選

『蓮田に朝日さす』 桃井 光子郎(神奈川)

蓮田を手前いっぱいに入れたことで、見慣れた棚田の景色に変化ができました。撮影のタイミングが良かったので朝日の具合や全体の色がよく出ています。ケレン味のない素直な写真の狙いに好印象を受けました。

マミヤ7II N65mmF4L f22 オート ヘルビア100



入 選

『紫陽花の参道』 山崎 泰(栃木)

撮影時間がベストで薄暮時の雰囲気伝わってきます。遠近感が強調されて画面構成もしっかりとしています。ただ、もう少し絞って被写界深度を深くした方が良かったと思います。

RB67プロSD KL127mmF3.5L f11 1秒 E100VS



入 選

『朝の木立ち』 林 かつひろ(京都)

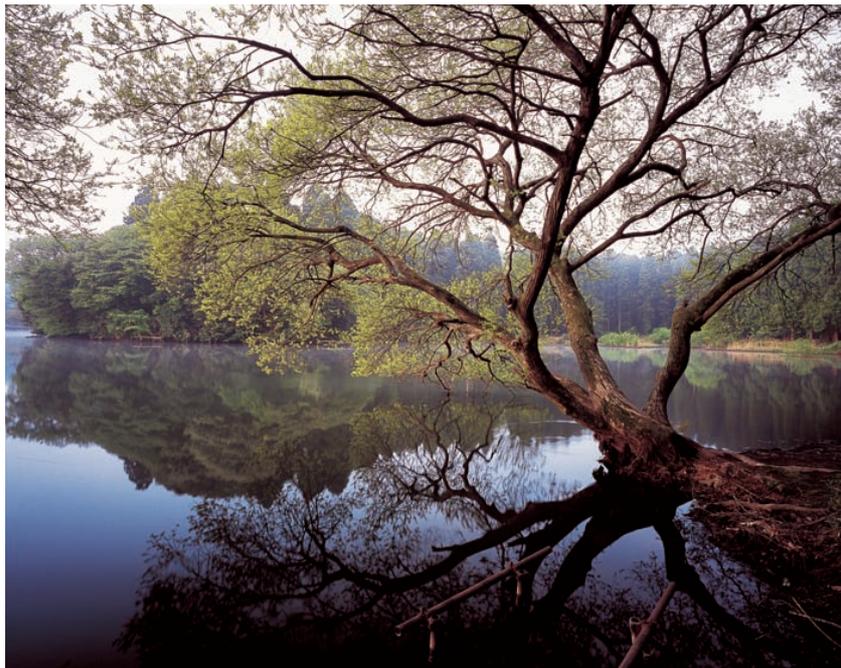
タンゲステンフィルムで撮影したかのように青く写り、大正池の早朝の静けさがうまく表現されています。白樺の配置とフレーミングがよいので静けさの中にもリズム感が出ています。
マミヤ7Ⅱ N65mmF4L f5.6 オート E100VS



入 選

『秋色舞台』 多田 弘(静岡)

雲間からの光がドラマチックですね。PLフィルターなどで除去してしまいがちな反射ですが、それをしなかったことでクマザサがキラキラと反射して、この光の印象が完成しています。
マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L f11 オート ベルビア50



入 選

『芽吹く沼』 坂田 新(千葉)

芽吹き頃の少し肌寒い、朝の雰囲気が生々しく描写されています。鏡のような水面への反映がとても綺麗です。この構図だともうにもなりません、やはり手前のパイプは少し気になります。

マミヤ7 N80mmF4L f22 オート ベルビア100 PL



入 選

『元駅の春』 富野 順一(広島)

元駅とは廃線跡のことなのでしょうか？桜と桃とれんぎょうが咲きそろって春爛漫といった風情ですね。フレーミングは悪くないのですが、とても良い雰囲気の被写体なので、もっと広く周りの景色も見たいくなります。

RB67プロS C100-200mmF5.2W f16 1/2秒 ベルビア100



入 選

『散る紅葉』 荒川 信利(埼玉)

茅葺きの屋根にうまい具合に紅葉が散って、よいアクセントになっています。山門の奥の紅葉が明るいので遠近感が出ています。主題ははっきりしているので、もう少し引いて周りをに入れて撮影しても良かったかも知れません。

RB67プロSD C100-200mmF5.2W f11 1/2秒 E100VS

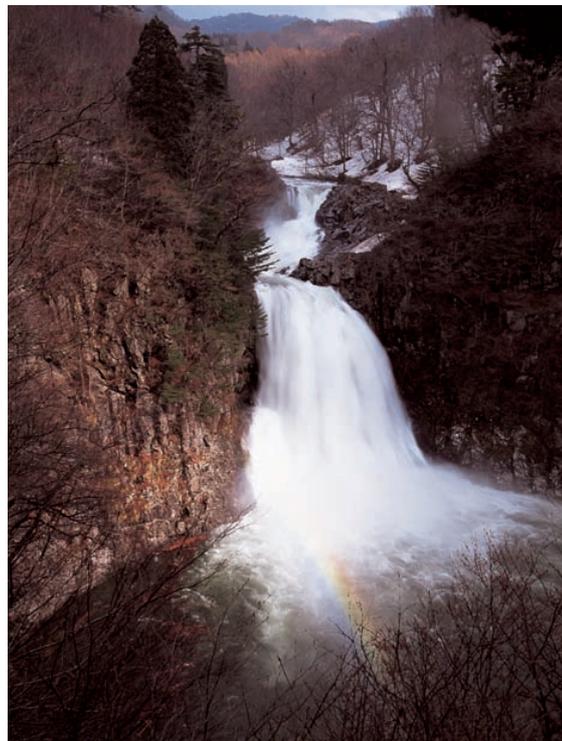


入 選

『夕輝の滝』 生頼 弘(奈良)

はじめは顕微鏡写真かな?と思ったほどの不思議な作品です。岩肌に夕日が当たってキラキラと輝いている様子が綺麗です。ロングシャッターは面白いのですが、高速シャッターを使用してみると、また違ったイメージの写真が作れるかと思えます。

645AFD AF ULD105-210mmF4.5 f16 オート ベルビア100



入 選

『光彩』 井川 クキ子(東京)

豪快な滝ですね。轟々とした水音が聞こえてくるようです。虹がポイントになっているのは勿論ですが、滝壺の末広がりがよいバランスになっています。大きく伸ばすほどに迫力が増してくるでしょう。

645AFD AF55-110mmF4.5 f32 1/4秒 ベルビア50

MCC屋久島撮影会

コンテスト入賞作品

撮影指導・作品選 秦 達夫

皆さん大雨の中の撮影お疲れ様でした。屋久島は雨が降ってこそ屋久島ですからいい経験が出来ましたね。正直あの雨の中これだけの作品を創り出す事が出来るとは思っていませんでした、さすがマミヤクラブのメンバーですね。中でも川や滝の流れを写した作品の描写は素晴らしく中判カメラの威力を再認識いたしました。これからも沢山の名シーンに出会ってくださいね。最後に一点、全ての作品ではありませんが傾向として写真が狭い感じがします。画角が狭いのではなく写真に広がり感が足りません。これはアングルとポジションの選択で変化させられますから次回から意識してみてください。

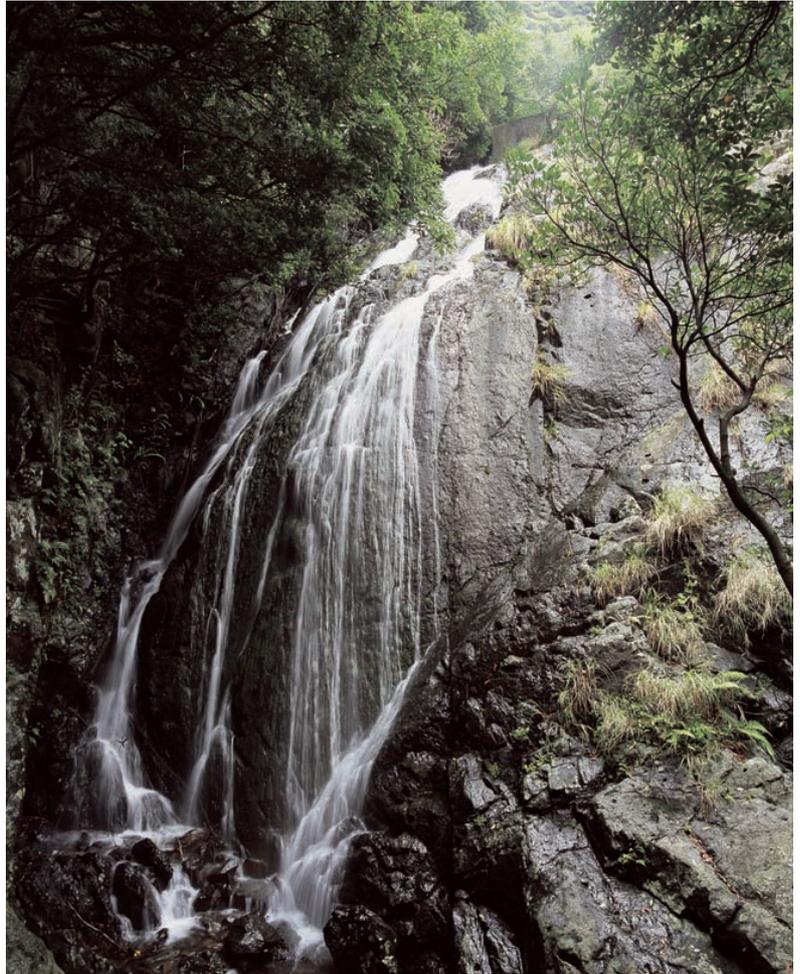
写真家 秦 達夫

金 賞

『布引の滝』 飯塚 光男(東京)

大胆に周りの木々をフレーミングし森の深さを表現していますね。このようにフレーミングを工夫すると実際よりも深い森を印象付ける事が出来るんですね。白い糸を垂らしたように流れる滝の描写も観ていて気持ちいいですね。

RZ67プロII セコールZ50mmF4.5W f22 1/4秒 プロビア400X

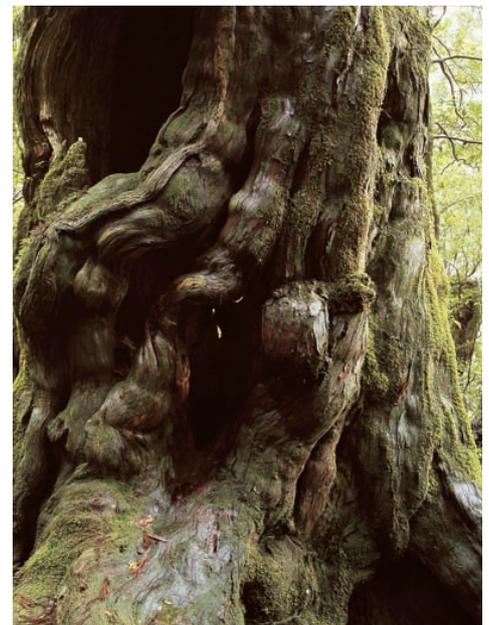


銀 賞

『森の中の流れ』 古関 良一(東京)

淵に浮かぶ泡?が揺れ流れる様が印象に残る作品です。他の応募作品を拝見したところ、流れにこだわっていたようですが、その気持ちを忘れずにこれからも撮影に取り組んでいただきたいと思います。

マミヤ645AFD AF APO300mmF4.5IF f11 オート+0.5EV補正 E100VS



JTB賞

『巨 樹』 井川 クキ子(東京)

大胆なフレーミングですね。大木を深く切り取ったフレーミングが木の大きさを強調しています。うねる木肌も力強く巨樹の精悍な姿を的確に表現できていますね。

マミヤ645AFD ULD AF105-210mmF4.5 f22 10秒 プロビア400X



銅賞

『一日の終わり』 行川 征子(埼玉)

応募作品の多くは緑と水の流れでしたが、この作品の色はとても印象に残りました。わずかなチャンスを活かした作品ですね。僕の記憶が正しければこのシーンは朝ですがタイトルは少し考えた方がいいと思います。

マミヤ645AFD AF55-110mmF4.5 f5.6 オート-0.3EV補正 プロビア100F



入選

『自然の佇まい』 塚田 達男(茨城)

苔生した林床が森の深さを表していますね。これぞ屋久島というショットが撮れたと思います。木々の配置に工夫があるととても良い作品に仕上がったのではないのでしょうか。

RZ67プロII M65mmF4L-A f22 オート ベルビア50 PL



入選

『歲月』 川又 正卓(東京)

ガジュマルの姿を迫力が伝わる角度で狙っているところがいいですね。このような樹形は狙う角度を間違えると迫力が半減してしまいます。木を見る目をお持ちの様ですね。

マミヤ7II N80mmF4L f11 1/30秒 プロビア100F



入選

『涼流』 林 孝雄(東京)

前景にポイントを配置した構図は奥行き感を引き出し広がりのある風景を作る効果があります。この作品はその効果を活かした絵作りがなされています。左奥の淵にもう少し表情があるといいのですが。

マミヤ645プロTL セコールC55-110mmF4.5N f16 オート ベルビア100F



入選

『流れの生命』 伊藤 良雄(神奈川)

川の流れが雲海を思わせる描写になっていますね。いい表情だと思います。少し気になるのは上部の枝葉ですね。もう少し枝葉の面積を減らし流れを大きく出来ると良いと思います。

マミヤ645プロTL セコールC55-110mmF4.5N f16 オート ベルビア50 PL



魅惑のアルジェリア 大塚 雅貴 (おおつか まさたか)

アフリカで2番目に大きな国土を持つアルジェリアは、北部を地中海に面し、東西を縦断するアトラス山脈を堺に南部にはサハラ砂漠が広がっている。この国は紀元前12世紀にフェニキア人をはじめ、ローマ、アラブ人が次々と侵入、さらに130年にも及ぶフランス植民地時代を経てからも武装闘争や内戦が活発となり様々な文化・宗教の影響を受けながら常に支配された歴史を持っている。最近ではイスラム原理主義の強硬派によるテロで92年以降7万5千人以上の死者を出し、旅行者の入国は厳しく制限されていた。

ところが数年前から政府の治安維持体制の強化によってテロも鎮静化し、平穏を取り戻してきたというニュースを聞き、私はアルジェリア行きを決定した。また、禁止されていた博物館内のモザイク画の撮影許可を在日アルジェリア大使館のシドアリ・ケトランジ大使のサポートによって取得できたことは幸運だった。今回、カバンに入れたのは機動性のある「マミヤ7 II」。治安が良くなったとはいえ、現場での機材の管理が少しでも楽になるようにコンパクトなこの機を選んだ。N80mmF4レンズ付で1210gという軽さも魅力、また電磁レリーズシャッターの採用で周囲から目立たずにシャッターが切れるのも選んだ理由の一つ。レンズは43ミリF4.5L、65ミリF4.5L、80ミリF4Lの3本。それぞれのレンズを手にとってみても、驚くような軽さとコンパクト感がお気に入りだ。最近では、航空機内への機内持ち込み荷物に関する制限が厳しくなっており、航空会社によって差はあるものの飛行場では気を遣うこともしばしば。そんな悩みも解消してくれる。

首都アルジェラから東へ250キロ、山の斜面を縫うように走る先に突然巨大な遺跡が現れた。標高900メートル、山間の尾根にたたずむ古代ローマ都市ジェミラはかつて「クイクル」と呼ばれ、遊牧民ベルベル人の侵入を阻止するための要塞都市。谷の斜面に築かれ3千人を収容した半円形劇場が当時の繁栄ぶりを伝えている。ここで最も注目したいのは、高さ6メートルになるモザイク画。その多くは壁に展示されているが、壁画ではない。かつて裕福な家庭の床につくられていたものががしだったもの。古代ローマ時代後半につくられた多色のものが多く、狩猟や農作業の様子が躍動的に表現されている。それを眺めているだけでも肥沃な土地が広がり、かつて「ローマの穀倉」と呼ばれた豊かな暮らしを垣間見ることができる。

さらに東に200キロ。皇帝コンスタンチヌスにちなんでこの名がつけられたというコンスタンティヌスは橋の町として有名だ。標高650メートル、街へ向かうゆるやかな坂を上りフランス植民地時代に築かれた美しい町並みを抜けると、断崖絶壁の峡谷が現れた。約2キロに渡る峡谷に架けられた5つの橋はそれぞれ特徴を持っているが、その中で最も美しい「シディムシド橋」(表紙)は、1912年に作られ、高さ175メートル、長さ165メートルを誇る街のシンボルだ。木曜の午後、イスラム教の休前日にあたるこの日は市場へ買い物に向かう人々で橋には多くの人や車が行きかう。また、侵入者からの攻撃を防ぐためにつくられた迷路のように入り組む路地「カスバ」には、パン屋と肉屋に挟まれた小道からは子供たちの笑い声が聞こえる。入国するまでは少し不安もあったが、実際に現地を訪ねてみると、そこには世界遺産の古代ローマ遺跡とともに古きよきヨーロッパの風情漂う私たちの知らない美しきアフリカがあった。そして帰国して撮影した作品を見る度に、平和へ向かうアルジェリア再訪への思いを馳せた。

取材協力：駐日アルジェリア民主人民共和国大使館、アルジェリア文化省、(株)エア・システム



大塚 雅貴

(おおつか まさたか)

1968年、千葉県生まれ。

1993年、写真家・野町和嘉氏の助手としてサハラ砂漠取材に同行。

1997年からエジプトでアラビア語留学を経て、リビア、ニジェール、マリなどでサハラ砂漠を取材する。

写真集に「耕して天に至る～中国・雲南世界一の棚田」(毎日新聞社)がある。現在も北アフリカを中心に遺跡やサハラ砂漠の撮影を続け、雑誌や個展などで作品を発表している。

<http://www.photo-otsuka.com/>



マミヤ7II



マミヤ7II



マミヤ7II



マミヤ7IIで中判スナップ

後編

講師 山崎 正路

フィルムを使い分けましょう

フィルムカメラではフィルムの選択は重要です。メーカーのちがい、ISO感度、粒状性、彩度の違い、標準的なフィルム、グラデーションを重視したフィルムなどがあります。風景写真などで三脚を使用するのであれば、粒状性の細かい低感度のフィルムが良いでしょうが、今回はスナップということで手持ち撮影を考慮してISO400のプロビア400Xを使用しています。このフィルムはブローニー判のリバーサルフィルムでは唯一のISO感度400です。彩度も適度に高く粒状性も十分です。

増感現象で幅広く感度を使い分ける事も出来ます。1~2段の増感現象を行なう事でISO800~1600での撮影が可能と言う事になり手持ち撮影でも余裕が持てます。マミヤ7IIはレンズシャッターなのでミラーショックもなく、慣れると1/15秒ぐらいまでは手ブレなくシャッターを切る事が出来ます。個人差もあり練習も必要ですが基本のカメラ保持が出来るようになれば、手持ちでハンドリング良く使える中判カメラと、ISO400フィルムの組み合わせはスナップには特に有効です。



固定されたフィルムの色温度

フィルムの色温度はデーライトタイプで5500度ケルビンに固定されています、

電球(タングステンライト)ではアンバー色(赤っぽく)、蛍光灯ではグリーン色っぽくなります。デジタルカメラではオートホワイトバランスにするとカメラが自動的に補正し平均化された色温度になりますが、フィルムでは光源の色温度により様々な色に再現されます。

フィルムを使用すると、こういった色を補正するフィルターワークの基礎なども勉強することができます。この色温度の違いによって、冷たさや温もりなどを表現することも効果的です。



電球ではアンバー色に、蛍光灯ではグリーン色になる



光源による色温度の違い

レンズの表現方法を覚えましょう



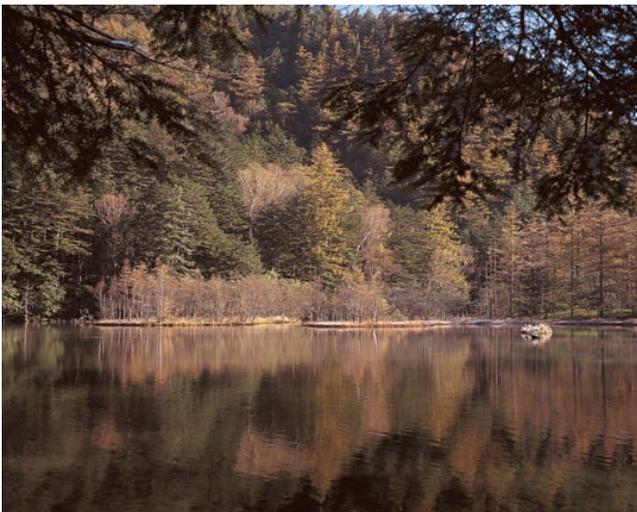
80ミリ本の標準レンズで 変化をつける

レンジファインダータイプのカメラでは、ズームレンズはありません。単焦点レンズを上手く使いこなすかが出来れば、レンズ一本でも様々な表現が可能になります。空の部分に木の上からの枝を入れる事で広角らしい見せ方をすることが出来ます。A

低い枝を利用して空の空間をなくして画面を作ると空間が無くなり引き寄せ効果を感じさせる事ができ、望遠レンズのように見せる事が出来ます。B

普通に撮影した写真と比べてみてください、湖の小岩の大きさですべて同じレンズだと言う事が分かると思います。ズームだけで安易に画面の変化を作るのではなくレンズの基本的な使い方を理解する事ができる様になれば、画面構成に広がりができます。C

A



B



C



80mm



43mm

交換レンズを活用する

固定された撮影場所では、交換レンズが活躍します。どちらかというと望遠には弱いレンジファインダーカメラですが、広角レンズと比較すると表現の幅を大きく変えることができます。ただ画角を変えるという目的だけでレンズ交換をするのではなく、広角ならその効果をさらに引き出せるよう、前景の扱い方などを考えてみてください。

良い前景を見つける事が広角レンズの上手な使い方になります。

体を使い動きながら撮影しましょう

前景を変えてみる

背景のビルは見る角度を変える事で光線具合や形を変えることができます、広角レンズでは遠景は小さくなるので、形の変化は表現しにくいので、画面手前に置く被写体の変化で写真の表現を変えていきます。D

またスナップ撮影では1か所で満足せずに足で色々動き回って、良い前景の被写体を探してみましょう。E



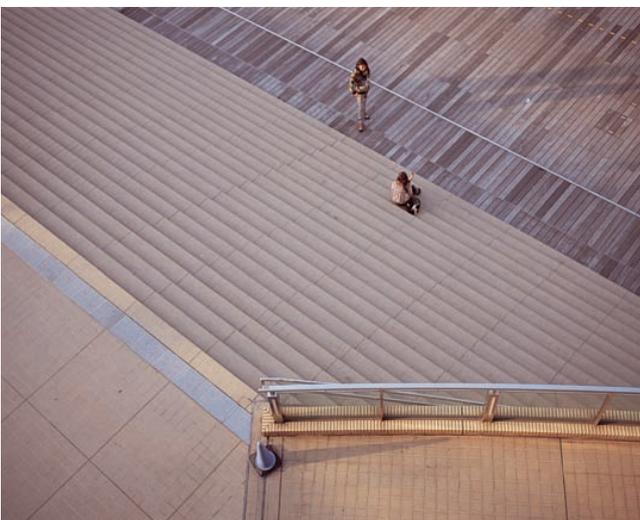
D



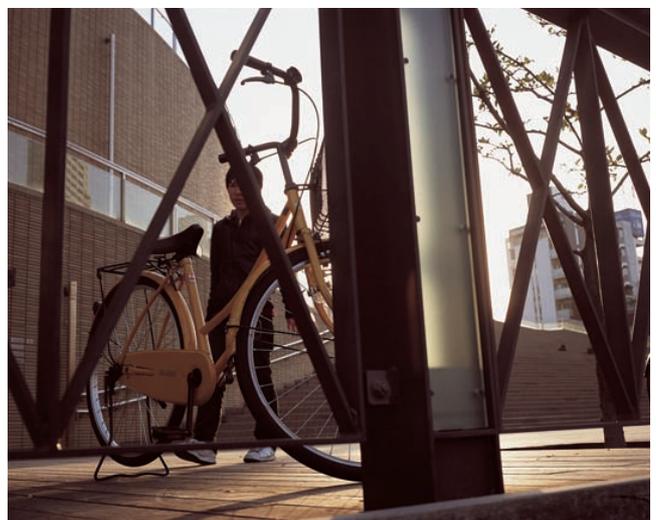
E

一本のレンズで寄ったり引いたり

被写体に対して、近づいたり離れたりする事で写真はまったく変わります。狭い空間でも狙いを変える為に、こまめなフットワークは必要です。近づいて主題を強調させたり、離れて情景を表現させるのも面白いでしょう。



建物の屋上から撮影



同じ建物の階下から撮影



主となる被写体に近づいて撮影



主となる被写体から離れて撮影



☀️ 目線の高さを変えてみる

カメラを構える高さを変えると意外な風景が見えます。だれでも自分の目の高さで撮影することはできます。目線を上げることは難しいですが、下げることはしゃがめば良いので簡単です。上からのぞいたり下から見上げたりするだけで、新しい構図が期待できます。写真左・左下



スナップに限ったことではありませんが、写真はファインダーの中だけの世界ではなく最終的に何を完成物とするのか、目的を決めましょう。写真展に出展するのか個展の為の写真なのか、最近では手軽に写真集にする事も出来ます。大きくプリントして部屋に飾る事でも満足感があります。せっかく大きなフィルムで撮った写真ですから作品をどう生かすか、その方法も考えてみてください。完成物を想定して撮影することで写真にテーマができます。マミヤ7Ⅱは単純でかつ完成されたカメラです。フィルムカメラの基本的な知識や操作などを覚えながら本格的な中判写真が撮影できるカメラです。是非様々なジャンルに挑戦してみてください。



フィルムとカメラの信頼関係



マミヤ645AFD 80mmF2.8 f11 AE PLフィルター使用 手持ち E100VS

この連載も2回ほどデジタルカメラが続きましたが、今回は戻って銀塩フィルム基本でいきましょう。現在マミヤカメラに代表される中判は、山岳・風景ともにまだまだ銀塩フィルム使用が圧倒的です。これはなぜでしょうか。

それは我々がフィルムを使用したときの表現への信頼感が大変大きく、デジタルにみる表現バラエティの多様さとはちょっと異なっているということです。確かに良い悪いの違いではないが発展途上の不自然さが出現するところがデジタルにはあるようです。これに対してフィルムのシステムは、フィルムとカメラとレンズと仕上げが一つのラインとして極めて完成度が高く確固としたプロフェッショナルのスジガネがまっすぐ通っているからなのでしょうか？

デジタルだと自分でうっかりした処理をすると色彩などが暴走(?)状態になってしまうことがけっこう出てしまう。筆者はこれを、「夕焼けは紅ショウガの汁の色になり、青空は青インクを薄めた色になる。」と言ったら、デジタルの人にそれは言い過ぎだ、と怒られました。そうかも知れません。でも確かにそんな傾向はあるのです。以前、黄色の高山ケシ(メコノプシス)の

花を撮った時、リバーサルフィルムではキチンとそのものの色彩が再現されていたのに、デジタルのプリントは白く写っていました。デジタルのオペレーターに「この花は黄色なんですよ」と言ったら「アア、すぐに黄色に変えられますヨ」と言われました。記録としての写真ではそれでは困るのですね。

作例は、たくさん色の花が群生している南アフリカのナマクアイランド原生花原です。リバーサルで撮った花の色彩はこの通り。これをデジタルで撮ったとしたらいくつかの花は違った色に写ったかも知れません。つまり見た色に写らなかったでしょう。

このあたり、いつも写真はキチンと写って当然、と考えているありがたさが、フィルムとカメラの間に培われたきた信頼感になっているのだな、と思ったのです。

作例「グハップ山岳原生花原」

南アフリカ・ナマクアイランド。一年に早春の2週間だけ見渡すかぎりの花盛りになるがその前後は荒地(世界遺産)



第4回中判カメラフォトコンテスト

審査 岩本 恵次

主催：マミヤカメラクラブ/コダックフォトクラブ/日本ハッセルブラッドクラブ/ペンタックスファミリー

総評 中判カメラを使いこなす方は技量的にも素晴らしいものがあります。今回も優れた作品が多数応募されましたが、最終的には順位を決めるのは新鮮さと個性です。自分の眼や視点で被写体を探し出し、固定観念に縛られることなく、個性あふれる表現を目指していただきたいと思います。ドラマチックなシーンはそれ自体にインパクトがありますが、それを求めるだけではいずれ行き詰ってしまいます。被写体は身近にあり、平凡であっても、工夫次第で絵にすることが可能です。被写体にじっくり対峙し、あらたな独自の視点で切り取ってください。

日本写真家協会会員 (JPS) 岩本 恵次



銀賞 『緑 風』 中村 光三(京都府)

新緑と巨木を対比させた画面構成がまず眼を引きます。ひび割れたような巨木の幹の質感と存在感。はかなげに葉をゆらす白樺。綿密な計算に裏付けられた作品です。

マミヤカメラクラブ賞

『早春の大岩壁』

山崎 泰(栃木県)

シーズンを外れた谷川岳が逆に新鮮な印象です。レンズ選択、画面構成、露出それぞれが的確で見ごたえのある作品となっています。岩肌の質感・残雪の白さが見事なハーモニーを奏でています。



金賞 『燃える湖面』 片岡 美子(栃木県)

被写体としてはどちらかといえば平凡なものですが、最適な時間帯と最適なシャッターチャンスで、完成度の高い非凡な作品にしています。自然の営みを見事に描写した力作です。



銅賞 『春満開』 黒田 収(滋賀県)

満開の桜、その左右でかしくように咲く桃の花、横一列に並んだ子供たち。それぞれが見事なバランスを保っています。自然と人間の共生をさりげなく演出した秀作です。



ポートレートスタジオ撮影会

主催：マミヤカメラクラブ/コダックフォトクラブ/日本ハッセルブラッドクラブ/ペンタックスファミリー

東京：2009年9月12日(土) スタジオランティエユ 講師/桃井一至・中澤久和・伊藤洋介

大阪：2009年9月26日(土) サンスタジオ 講師/友田富造・東隆石

中判三メーカークラブとコダックフォトクラブの共同イベント、ポートレートスタジオ撮影会が東京と大阪で開催されました。ハウススタジオや本格的なコマースタジオが初めての方も多く、貴重な体験にとっても盛り上がりました。





Photographers' Laboratory マミヤカメラクラブ会員割引

フィルム現像～プリントまでプロフェッショナルワークがあなたの作品を支えます

フォトグラファーズ・ラボラトリーはフィルムによるアナログ写真にこだわったプロラボです。

昨年よりMCC会員の皆様には特別価格《ポジフィルム現像・RPプリント・ネガカラープリントは、特殊なものを除き定価2割引》にてご利用いただき、おかげさまで大変好評をいただいております。

遠方にお住まいの皆様には発送によるメールオーダーのご注文をご利用いただいております。こちらも大変人気がございます。

ご注文金額が税込10,500円以上の場合は送料弊社負担とさせていただきますので、撮影会などまとまった本数の場合や、お仲間同士持ち寄ってのご注文の場合など、是非ご利用ください。

アナログ写真での作品づくりを続けてゆく上で、ますます厳しい環境になりつつある現在ですが、少しでも皆様のお力になればと思います。是非ご利用下さい。

《料金例・MCC会員様割引価格》

●カラーポジフィルム現像

	ノーマル・スリーブ仕上	増減感・スリーブ仕上
135/36	640(税込¥672)	760(税込¥798)
120	400(税込¥420)	480(税込¥504)
220	800(税込¥840)	960(税込¥1,008)
4×5in	240(税込¥252)	280(税込¥294)

●RPダイレクトプリント

	普通光沢	クリスタル
六切	1,600(税込¥1,680)	2,560(税込¥2,688)
四切	2,800(税込¥2,940)	3,840(税込¥4,032)
半切	4,400(税込¥4,620)	6,800(税込¥7,140)
全紙	7,200(税込¥7,560)	10,400(税込¥10,920)

ご注文の際には、必ずMCC会員カードを提示下さい。
詳細につきましては、本誌と同封の詳細をご覧ください。

※プリントの納期はご注文の後、1週間程度です

フォトグラファーズ・ラボラトリー <http://www.photographers-lab.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-34 赤坂リキマンション TEL/FAX 03-3583-1607

営業時間 平日10:30AM～7:00PM(6:00～7:00PMは予約制) / 土曜は完全予約制にて応相談 / 日曜・祝日休業

※プリントに関するご相談などは平日でもご予約の上、お越し下さいますようお願いいたします。



新製品ニュース

マミヤ645DF

6×4.5cm判フォーamatのデジタルバック専用ボディ、マミヤ645DFは各機能を徹底的に見直し、フィルム使用機では難しかった多くの機能のパフォーマンスを向上させました。AF精度及びスピードの向上、シャッタータイムラグの短縮など基本性能の向上とともに、新たに開発された、最高速度1/800秒までストロボ全速度に同調するセコーAF80mmF2.8LS Dレンズも使用できます。Mシリーズ/ZDバックシリーズはもとより、各社のデジタルバックを使用することができます。

【製品仕様】

■カメラ型式

6×4.5cm判電子制御フォーカスブレインシャッター、TTLマルチモードAE、AF一眼レフレックスカメラ

■デジタルバック

マミヤMシリーズデジタルバック、マミヤZD Back他

■使用電池

本体：単三型電池(アルカリ電池、リチウム電池、ニッケル水素二次電池、ニッカド電池)6本

■大きさ・重さ

幅153x高さ128x奥行152mm 1,030g(電池含まず)

【発売日】平成21年10月28日

【価格】オープン価格



645DF用レンズ

マミヤセコーAF80mmF2.8 LS D

マミヤセコーAF80mmF2.8 LS Dレンズは、6×4.5cm判で画角47度、35mm換算で50mmに相当するレンズシャッター内蔵の標準レンズです。最高速度1/800秒までストロボ全速同調を可能としたレンズシャッターを搭載しており、スタジオでのストロボ撮影、ロケーションフォトでの日中シンクロ撮影など、ライティングコントロールに絶大な威力を発揮します。

【主な仕様】

●レンズ構成：5群6枚 ●画角：47° ●最小絞り：22

●最短撮影距離：70cm ●最短撮影倍率：0.15

●最短撮影範囲：377×279mm

●35mmカメラ換算値：50mm

●フィルター径：72mm

●フード：バヨネット式

●寸法：51.5×80.5mm

●質量：450g

●露出制御：1/800秒～1秒

●ストロボ同調：全速度に同調

●49×37mm CCD装着時：91mm

●49×37mm CCD装着時：(35mmカメラ換算値)：56mm

【発売日】平成21年11月中旬

【価格】オープン価格



コダックフォトクラブ協賛企画

コダックエクタクローム64 プロフェッショナル(EPR) 120 10本セット特別販売

お申し込み:

マミヤカメラクラブ事務局までお電話でご注文ください。

03-5688-8024



コダックフォトクラブの協力により、プロフォトグラファーに絶大な支持を得ている色再現性の高いEPRをマミヤカメラクラブ限定で特別販売いたします。

商品 コダックエクタクローム64プロフェッショナル
120フィルム

会員販売価格 3,600円(送料、税込み)

販売数量 限定100箱

※使用期限が2010年4月までとなりますのでご注意ください。

※お届けまで2週間ほどかかる場合がございます。



マミヤカメラクラブ創立60周年記念イベント MCCフォトコンテスト

来年2010年はマミヤカメラクラブが創立60周年になります。60周年を記念したMCCフォトコンテストを開催します。

■応募期限：2010年3月31日(水)消印有効

■テーマ：自由

詳細は後日発送します。応募要項をご覧の上、奮ってご応募ください。
※他にも60周年を記念したイベントを開催予定です。

屋久島撮影会 後記 2009年6月25日(木)～27日(土)

待ちに待った屋久島撮影会に行ってきました。当日は羽田空港→鹿児島空港→屋久島空港と飛行機を乗り継いでやっと屋久島に到着。曇り空に時々小雨が降るといふ森の撮影には絶好の条件です。屋久島名物の飛魚料理で昼食をとりすぐにヤクスギランドで撮影。人も少なくゆったりとした気分です。森林浴をしながら撮影をしました。夕方は雨だったので、撮影はそこで打ち止め。夜は秦先生の写真教室。屋久島の美しい自然の写真を堪能し翌日の気分を盛り上げて就寝。

翌日はバスで移動しながら山並みやガジュマル園、そしてウミガメの産卵の跡などを撮影し、午後からはメインの白谷雲水峡の撮影。一人で森の中を歩いていると苔に呑み込まれそうな錯覚を覚えます。時々出てくるヤクシカの親子がかわいい。圧倒的な時間の流れを経てきた木々や植物の前では人もシカも、動物の存在がいかにかっぽけなものかと感じさせられました。この日は夕食を早く取り、沈む陽の撮影。太陽こそ没する瞬間は見せてくれなかったものの赤く焼けた空と海が南国の夕暮れを感じさせてくれました。

3日目の最終日はいくつかの滝を巡りました。が、途中からの大雨!秦先生が屋久島の雨はピンポン玉のようなのがドタドタ降ってくるかと話されていましたが、それに近い雨でした。そして極め付けが帰りの飛行機。天候の関係で機体の手配がつかずに、我々の飛行機だけ欠航!急ぎジェットフォイルに変更し種子島まで鹿児島島港、タクシーをとばしてなんとか鹿児島島空港で羽田行き最終便に5分前に到着。どうせ航空会社持ちだから、もう一泊したい気もしましたが、JTBさんの手際の良さに感謝です。

最後はドタバタでしたが素敵な撮影会になりました。



柵池撮影会 後記 2009年10月2日(金)～3日(土)

久しぶりの柵池撮影会。紅葉の最盛期を狙ってみました。ただ今年は紅葉の進みが例年より少し早い。本番の前の週に柵池ヒュッテの支配人、吉岡さんに電話したところ、今頃は最高なのに、と悔しいお言葉。それでも行ってみるとまだまだ良い紅葉が残っていて一安心。しかし、心配その2、天候が悪い。朝の集合場所の新宿で既に雨が降り始めていました。ゴンドラとロープウェーを乗り継ぎ柵池自然園に到着した時は深い霧のため、紅葉も山も何も見えません。それでも池塘などを撮影しながら明日に期待。標高1900mのヒュッテとは思えない、定評のある柵池ヒュッテの夕食、魚と肉のフルコースをおいしくいただいた後は花畑先生の写真教室。花畑先生はテレビの「王様のブランチ」に柵池の案内人として出演されたほどの柵池通。事前に下見に入ってもらい、新製品のデジタルバックで撮影していただいた「晴れている」柵池の写真を見て、複雑な気持ち。でもあきらめずに明日の太陽を夢見て就寝。

翌朝、日の出前に空を見てみると、おっ星が出ている。期待大。一目散に湿原に出てみると、稜線も雲間からスポットのように、またカーテンのように日が差し込み、劇的な山と紅葉を演出してくれました。これだから柵池はやめられないですね。朝食後は思い思いに湿原に出て撮影。健脚組は浮島湿原まで足をのばして撮影していました。

天気の演出により七変化の柵池を撮影できた2日間でした。



第17回・18回MCCフォトコンテスト入賞作品展が開催されました

2009年6月25日～7月8日、HCLフォトギャラリー新宿御苑にて第17回と第18回のMCCフォトコンテスト入賞作品展が開催されました。全紙から全倍にプリントされた迫力のある中判写真の展示に来場された方の反応も好評でした。



本誌フォトテクニックノートやMCCセミナー講師を担当していただいている写真家、山崎正路氏の写真集が発売になりました。



『オランウータン ジプシーファミリー』 写真絵本 写真・文 山崎正路

定価1,575円(税込み)
180×180mm/並製本/カラー96ページ

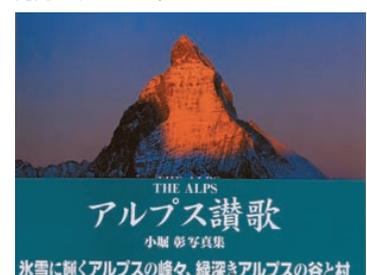
株式会社 日本写真企画

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-25-10 JR八丁堀ビル6F
TEL.03-3551-2938 FAX.03-3551-2370

ご希望の方は、お近くの書店にご注文されるか、当社営業部へ電話、またはFAXでご注文下さい。代金は(後払い)同送の振り込み用紙にて郵便局かコンビニエンスストアよりお支払い下さい。ホームページ [http://www.photo-com.com/] オンラインショップよりご注文いただけます。価格は税込みです。

送料
無料

MCC撮影会の協力やお手伝いをしていただいている写真家、小堀彰氏の写真集が発売になりました。



『アルプス讃歌』小堀 彰 写真集
株式会社 鎌谷書店 TEL.03-5390-2211

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。

撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別幹旋などの特典があります。

入会金：1,050円(消費税込み)

会費：4,200円(消費税込み) 2年会費

手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

- クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 修理代金の割引
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- マミヤカメラクラブメール
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- マミヤオリジナルグッズの特別幹旋販売
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み・お問合せは

マミヤカメラクラブ事務局

〒110-0005 東京都台東区上野 2-14-22 明治安田生命上野公園ビル 4F
TEL.03-5688-8024



マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。

また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8040 営業時間 9:00~17:50
土、日、祝日は休業

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

本社 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F

商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。

東京サービスセンター 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F
TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8039

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター：〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目
TEL 011-221-8507 FAX 011-232-3344
東北地区 M C プロテック：〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202
TEL 022-297-3845 FAX 022-256-1808
東海地区 山田テクニカルサービス：〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99
TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。

《マミヤホームページ》<http://www.mamiya.co.jp>

この会報誌は最高級の美術印刷技術 HBP-700 を使用しています。